東日本大震災による当館の被災と復旧

昨年３月１１日の東日本大震災は，茨城にも大きな爪痕を残しました。

本県では，午後２時４６分発生の東北地方太平洋沖地震（Ｍ９．０）で震度６強を，同３時１５分に発生した茨城県沖を震源とする余震（Ｍ７．７）では震度６弱を記録するとともに，沿岸には津波が押し寄せ，県内全域にわたり様々な被害を被りました。

当館の所在する県都水戸市も，最大震度６弱を記録し，本来災害対策の拠点となるべき市役所や消防本部は，庁舎が使用不能に陥りました。また，この時期は例年開催されている「水戸の梅まつり」期間中でもあり，会場の日本三名園のひとつに数えられる偕楽園や水戸藩藩校で国指定重要文化財の弘道館も，観光客で賑わう中，建物や庭園に大きな損傷を受けました。

当館では梅まつりに合わせ，特別展「頼重と光圀―高松と水戸を結ぶ兄弟の絆―」を開催中で，普段より多くのお客様が入館する中，地震に見舞われました。

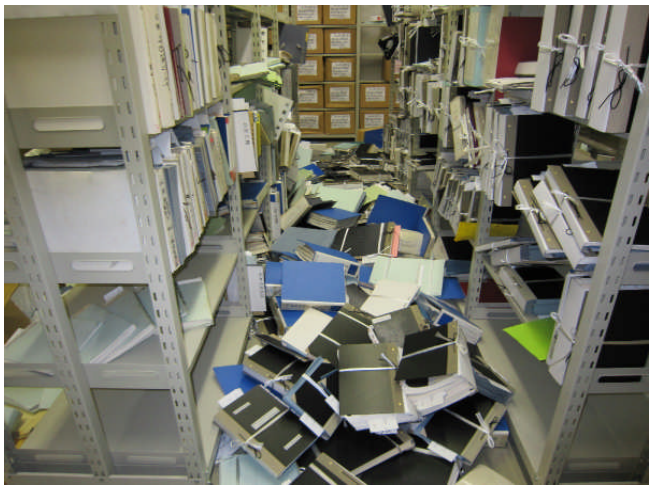
地震直後の事務室

地震により電気，水道等のライフラインは寸断し，事務室をはじめほとんどの部屋で，机上や書架から文書や資料が落下し床に散乱しました。幸いにも，誘導された来館者，職員ともに怪我などの人的な被害はありませんでしたが，特別展は常設展とともに中止となり，文書館部門も合わせ全館休館を余儀なくされました。

余震の続く中，震災当日は屋外避難場所となった管理棟玄関前で解散し，翌１２日から復旧，開館に向けた業務を開始しました。まず行ったのが，施設内外の被災状況の確認です。

破損した土器（展示室）

博物館部門では，エントランスホールや展示室で天井灯の落下が計１７箇所見られました。展示物は，常設展の大型土器の破損をはじめ，多数の資料が落下・転倒しましたが，特別展のために外部から借用していた資料が無事だ



落下・散乱した行政文書（文書整理保管庫）

崩落した玄関廂（旧水戸農業高等学校本館）

内壁の剥落（旧水海道小学校本館）

ったのは，まさに不幸中の幸いでした。また，考古収蔵庫や民俗収蔵庫では，壁や柱に被害を受けたほか，収蔵物も土器，陶器，ガラス器等に破損が見られました。

文書館部門の被害としては，閲覧室の資料検索システムのダウンと文書・図書等資料の落下が挙げられます。特に資料の落下・散乱はひどく，「本館第一書庫」の約８千点をはじめ，行政文書の補修・整理を行っている「文書整理保管庫」，館外で文書保管庫として使用している「三の丸倉庫」，県庁移転時に収集した行政文書を整理している「三の丸庁舎」（旧茨城県庁）の３か所を合わせると，その量は実に２万点を超えるものでした。

屋外に点在する施設にも様々な被害が見られました。当館は，那珂市へ移転した県立水戸農業高等学校の跡地に建設されましたが，そのシンボルとして敷地内移築により残された「旧水戸農業高等学校本館」は，午後３時１５分の余震の際，本震後に巡回をしていた職員の目の前で，武家造風の玄関廂部分が崩れ落ちました。

また，明治時代に建築され，常総市より移築された擬洋風建築の「旧水海道小学校本館」（県指定文化財）は，外部に大きな損傷こそ見られなかったものの，屋内のあちこちで土壁が剥落し，館内

で展示していた近代教育資料の公開や，米スタインウェイ＆サンズ社のグランドピアノ（１８６５年製，日本に洋楽が導入された明治維新期のピアノの一台）を用いたイベントなどが開催できなくなりました。そのほか，潮来市より移築された近世の直屋型の農家「旧茂木家住宅」（県指定文化財）や，庭園敷地の一隅に建てられた茶室などでも，建物の内外に損壊が確認されました。

停電や断水は，県内の多くの地域で数日間にわたり続きました。当館では，１２日午後には電気，水道が復旧しましたが，本格的な復旧に向けて問題となったのは，職員の通勤手段の確保です。ＪＲ常磐線をはじめとする鉄道など公共交通機関の不通と，ガソリン不足で自家用車の使用に支障が生じたことにより，通勤困難者が発生したのです。これには，自転車の利用や自家用車の乗り合わせなどで対応し，翌週半ば１５～１６日頃には，ようやく職員の勤務態勢が整いました。

幸いにも，本館の建物自体に大きなダメージは見られませんでした。そのため，内部施設・設備の復旧，展示物や収蔵資料の修繕を中心に開館に向け作業が行われました。大量の文書や図書類が落下した書庫や文書保管のスペースでは，散乱した資料の整理，再配架などで復旧に２週間を要しましたが，資料の損傷被害はほとんどありませんでした。

被災から４３日目の４月２３日（土），当館は，ようやく本館展示と閲覧業務の再開に漕ぎ着けることができました。また，損傷の大きかった屋外施設についても，旧水海道小学校本館が修復工事を終え，７月５日（火）から公開を再開するとともに，崩落した玄関廂部分を修復した旧水戸農業高等学校本館や茶室など，いずれの施設も，現在は震災前と同じように利用が可能となっています。

修復成った旧水戸農業高等学校本館

昔から「天災は忘れた頃にやってくる」との言葉がありますが，今回はまさにそれを思い知らされた大震災となりました。この経験を無駄にしないよう，防災対策を怠らず，これからも「皆さまに安心して利用していただける歴史館」を心がけてまいります。

（史料学芸部行政資料課　木村　秀弘）